

大友氏顕彰会だより

おおとも

第29号

理事長 牧 達夫
編集 溝部幸祐



平成二九年度「会費」の納入

本年度(平成二八年度)も収支状況が厳しい状況ですので、できる方は三月三十一日までに来年度(平成二九年度・二九年四月一日〜三〇年三月三十一日)会費を納入してください。

なお、法人会員の方には来年度会費の請求書(本年度と同額)を送付します。

二月「定例学習会」の開催

会場 大友氏遺跡体験学習館・大分市元町

日時 二月四日(土)午後一時三〇分〜

内容

- ① 宗麟の海・友情編(感想文)「
- ② 吾処山城と秋月種実」
- ③ NHK訪問記とその前後の史跡探訪記

平戸方面バスツアー(案内)

昨年九月、台風の影響で延期になっていた大友氏ゆかりの地 長崎県の平戸・生月島・横瀬浦を訪ねる宿泊バスツアーを、次により実施しますので、多くの方々のご参加をお願いします。

行程 長崎県 平戸・生月島・横瀬浦
平成29年3月12日(日曜)〜
平成29年3月13日(月曜)

参加費 25,000円(当日徴収)
(参加者が多ければ安くなります)

集合 参加者は午前7時50分までに、大分駅東「貸切バス乗場」に集合

出発時間 午前8時00分(出発)

行程

【二日目】大分駅〜平戸大橋〜平戸切支丹資料館〜生月博物館・島の館〜大バエ断層と灯台〜平戸オランダ商館〜平戸海上ホテル(宿泊)

平戸方面バスツアー 申込先

【二日目】平戸海上ホテル〜松浦史料博物館〜平戸港周辺散策〜平戸大橋〜西海橋物産館〜横瀬浦〜大分駅
申込期限 参加希望者は、3月1日までに左記へ申込み願います。

牧 達夫 理事長

FAX: 097-546-8502
携帯: 090-5386-7318

早川 和人 幹事

携帯: 080-1770-8248
メール: kazuto5050@gmail.com

溝部 幸祐 事務局長

FAX: 097-544-2283
携帯: 090-5485-5157
メール: mizobe88@plum.plala.or.jp

詳細は別紙の「宿泊バスツアー(案内)文書を参照願います」

NHK訪問記(報告)

日時 平成二八年十二月二六日(月曜)

午前十時三〇分〜十一時一〇分

場所 東京・渋谷のNHK放送センター

最上階(二二階)

当日、午前十時二〇分過ぎ、佐藤樹一郎(大分市長)、姫野清高(NHK大河ドラマ「天友宗麟」誘致推進協議会会長・大分商工会議所会頭)、牧達夫(NPO法人大友氏顕彰会理事長)ら一〇名を、磯崎陽輔(参議院議員・農林水産副大臣)が引率する形で、NHK最上階の会議室に赴いた。会議室には既に、NHK側の対応者である木田幸紀(専務理事・放送総局長)、今井純(専務理事)、荒木利幸(制作局制作主幹)が待機されていた。

各々名刺交換をし、牧理事長がNHK側に「要望書」、天友宗麟ゆかりの地の写真集、そしてこれまでの「天友宗麟大河ドラマ化要請・陳情の経歴書」を手交し、磯崎議員の司会で会議が始まった。

まず、佐藤大分市長、姫野大分商工会議所会頭、牧大友氏顕彰会理事長から、自己紹介と要望の主旨・決意を含めて挨拶。

佐藤弘俊大友氏顕彰会理事・広報部長が

「要望書」を声高らかに読み上げた。

この要望書は三ページにもわたるものであるが、一言で云えば「天友宗麟は戦国期にあつて、ヨーロッパや東アジアと正面から向き合つた進取開明の異色の大名であり、まさに二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの年にふさわしい大河ドラマ



【要望書を読み上げる佐藤弘俊広報部長(左)、右はNHK側】

の主人公である」と言うことができる。

続いて佐藤市長から、大友館や庭園などの復元について、また大分での大友氏への盛り上がりについて説明。さらに姫野会頭と磯崎議員からぜひ大河ドラマにとの発言があつた。

今回、特別に参加していただいた井手得郎(在京大分県人会長・NHKOB)、櫻田啓(大友氏顕彰会顧問・作家)、野田泰三(大友氏顕彰会関東支部長・セラリカNODA社長)から自己紹介と力強いメッセージが発せられた。

NHK木田放送総局長から「私は以前の正月番組だった『心の王国を求めて・王の挽歌』(松平健・財前直美主演)のチーフ・プロデューサーをやり、大友宗麟についてはそれなりに理解している。当時大分にも出向いて鹿毛敏夫さん(現、名古屋学院大学教授)らにもお世話になつた」といわれ、みんなびっくりする

そして、今回の要望を受けて、はい分かりましたとは言えませんが、よく検討してみたい」旨の発言があつた。

約束の時間はあつたという間。最上階からの眺めも目にすることなく、NHKの方々にお礼を言いエレベーターへと急いだ。

大友氏顕彰バスツアー（報告）

豊後高田の旅

平成二八年十一月十九日（土曜）未明、カミナリ様の大音声で目が覚める。今日は豊後高田への旅と午後はフォーラムがある日なのに、ここ大分市は大雨でカミナリが鳴り響いていた。

幸いにも、大分駅東側の貸切バス乗場に着いた七時四〇分頃には雨が止んだ。だが心配したとおり、大村正子さんよりバスが不通で参加不能。臼杵からJRに乗った工藤大輝さんから途中で電車がストップし、河野眞一さんも一緒だとの連絡がある。一〇分ぐらいの遅れなら待つけど、大幅に遅れたら旅行全体がダメになってしまうので申し訳ないが定刻に出発すると連絡する。後ろ髪を引かれる思いで、定刻の八時一〇分に大分駅を出発した。別府北浜のトキハ会館前で待っていた松隈紀久子さんに乗せて一六人となる。別府で高速道路に乗る予定だったが、高速道路も不通ということで国道10号線を走って行く。

バスが快適に走ってゆく中、旅行幹事の早川和入さんが、本日の予定を説明する。

私たち一行は九時四〇分、最初の見学地「金宗院跡」に到着。

金宗院跡 豊後高田市松行

金宗院きんそういんは禅寺で永禄八年（1436）の開基といわれ、吉弘よしひろ氏の菩提寺であった。吉弘氏は大友氏の重臣として、中国地方の大内氏に対抗するため、屋山やま城主として当地を治めた。

私たちは金宗院跡入口の階段を上って行く。内部はよく整備されており、一番奥のこんもりとした木陰に、吉弘よしひろ統幸むねゆきやその父



【 金 宗 院 跡 の 入 口 】

鎮信しげのぶなど吉弘氏累代の墓がある。



【 吉 弘 氏 累 代 の 墓 】

吉弘家最後の当主である悲運の武将・吉弘統幸は、関ヶ原の戦い（1600年）で豊臣方についた大友吉統よしみねの武将として、徳川方の黒田官兵衛くろだ かんべゑ（如水じゆすい）の軍と石垣原（別府市）で戦い、孤軍奮闘のうえ壮絶な討死をした。当時の金宗院住職は、晒さらされていた統幸の首級を密かに持ち帰り、寺内に葬ったという。

石垣原合戦後、寺は無住となり寺屋は崩壊し、金宗院の名前が残るのみとなった。だが、吉弘氏の子孫や地区住民により供養

塔が建てられ、金宗院跡として今に遺されている。

私たち一行は金宗院跡を出て、川沿いにバスが走り、六分ほどで次の見学地である「川中不動」に一〇時二〇分、到着。

天念寺と川中不動 豊後高田市長岩屋

天念寺は養老二年(718)、仁聞菩薩が開基したと伝えられる古刹で、平安・鎌倉時代には修験と祈願の寺院として栄えたという。

天念寺の伽藍は、本堂・庫裡・講堂・六所権現社(現身濯神社)等からなっていたが、本堂と庫裡は昭和十六年十月一日の集中豪雨で流出し、現在は講堂と身濯神社



【川中不動(左の大岩)と天念寺(右の奥)】

だけが残っている。

天念寺の本尊・阿弥陀如来立像(国宝)は当時、国立博物館に展示していたため、流失の難を逃れたという。本尊は天念寺のそば「鬼会の里歴史資料館」に常設展示されている。

天念寺講堂では、毎年旧正月に五穀豊穰や無病息災を祈って、「修正鬼会」という行事が行われている。



天念寺講堂での修正鬼会(旧正月)】

天念寺の前を流れている長岩屋川の大岩に、高さ三メートル余の不動明王と、両脇に二童子が彫られている。これは水害防除の願いを込めて彫られたといわれている。

【川中不動(不動明王と二童子)】



川中不動の傍に「ふれあい直売所」があり、新鮮な野菜やオミヤゲ等をお安く売っている。みんな立ち寄って購入していた。



【ふれあい直売所:川中不動の傍】

私たち一行は川中不動を出て、一〇分ほどで最後の見学地となる「長安寺」に十一時ちようど到着。

長安寺 豊後高田市加礼川字屋山

長安寺は六郷満山の中山本寺で養老二年(718)、仁聞菩薩が開基されたと伝えられる古刹。鎌倉時代に入ると六郷満山の一〇〇以上の寺院を統括する地位を占めたという。

長安寺所蔵の太郎天像と二童子立像は、国の重要文化財に指定されている。太郎天



【長安寺を見学する一行】

像は櫃の一木造りの立像で、体内に銘があり、平安時代の天治五年(1130)に作られたことが分かったという。

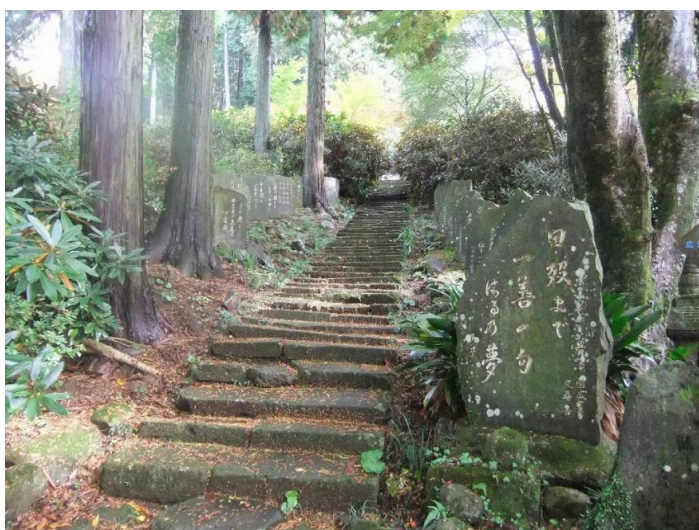


【太郎天像(中央)と二童子立像(両脇)】

さらに国の重要文化財で珍しいといわれる銅板経がある。石造塔類として五輪塔、宝篋印塔、仁王像、不動明王、国東塔など多くの文化財がある。

長安寺は花寺としても有名で、境内には四季の花々が咲くという。春から夏にかけてはウメ、サクラ、シヤクナゲ、ツツジ、アジサイと咲き続け、秋には赤・白・黄色の彼岸花が咲き乱れ、晩秋には寺一帯が見事な紅葉になり、冬はキンメイモウソウ、

ツバキが深閑とした境内に彩りを添える。私たちが訪れた十一月十九日は、紅葉の最盛期が過ぎようとしていた時期のようでした。色とりどりの落ち葉が地面を覆っていた。長安寺は、吉弘氏の屋山城跡がある屋山(543m)の七合目にあたるようで、この境内の一角から屋山の頂上へ上られる登山口があった。



【屋山頂上への登山口】

私たち一行は長安寺を十一時半に出て、豊後高田市・昭和の町で昼食となる。午後一時から開催の大友氏顕彰フォーラム in 豊後高田へ参加する。

大友氏顕彰フォーラム(報告)

大友氏NHK大河ドラマ化推進

フォーラムin豊後高田

平成二八年十一月十九日(土曜)十三時から、豊後高田市中央公民館で渡部恵美子(NPO法人アンジュ・ママン)さんの司会で始まる。

◎牧達夫・主催者代表あいさつ

今朝は祝砲が鳴りました。このフォーラムを祝して、カミナリが祝砲を鳴らせてくれたのだと思っています。

大友氏顕彰フォーラムはこれまで、大分市で六回開催しており、地方では臼杵市・竹田市に次いで今回は豊後高田市で開催しております。

フォーラム記念として毎年出版している



【牧達夫理事長】

『大友氏の風景(四)』の六二頁に永松博文豊後高田市長のコメントを掲載させていただきます。また二六三頁には、大友諸将として豊後高田と関係が深い「田原氏・吉弘氏・都甲史・真玉氏・小田原氏・田染氏」など豊後高田武士団が掲載されています。

豊後高田は大分県一の情報発信力を持つ



【 来 賓 の 方 々 】

ており、昭和の町、ホーランエンヤ、熊野磨崖仏、富貴寺、天念寺、長安寺、田染荘、六郷満山、屋山城跡、鞍掛城跡」等々有名な名所旧跡がたくさんあります。

今回のフォーラムは、基調講演とパネルディスカッション、詩吟や歌やフラダンスなどが用意されていますので、十六時三〇分まで大いに楽しんでください。

基調講演 大友氏を支えた吉弘氏

佐藤弘俊 大友氏顕彰会広報部長

NHK大河ドラマ「大友宗麟」

誘致推進協議会

豊後大友氏誕生から吉弘統幸・立花宗茂まで、大友氏四五〇年の旅

私たち大友氏顕彰会では、大友氏や大友武士団を顕彰し、NHK大河ドラマ化を目指して活動しています。それでは四五〇年の旅に出発しましょう。

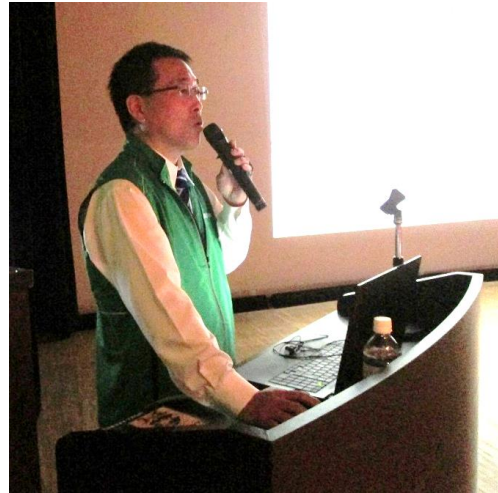
◎大友氏って誰? (大友氏っていったいどこから来たの?)

◎大友氏は今から約八〇〇年前、鎌倉時代の初期、関東の相模国大友郷(神奈川県)

小田原市)から豊後にやって来ました。豊後大友氏初代は大友能直よしなおでした。



【豊後高田フォーラムの会場風景】



【基調講演・佐藤弘俊氏】

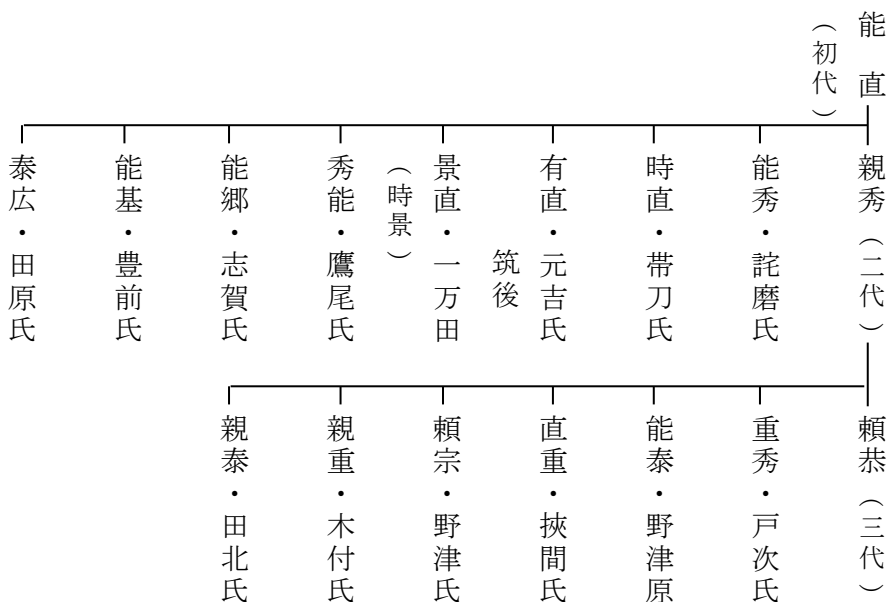


【大友能直：勝光寺所蔵】

◎大友氏が来た理由、時代背景は？
 (何で大友氏はこの豊の国に来たの？)
 ○鎌倉幕府を開いた「源頼朝」による全国統治。豊後武士団は全面的に抵抗し、激しい戦いの末、幕府軍は豊後を制圧。また、緒方三郎これよし惟栄が頼朝から追われた源義経を豊後に迎えようとしたこともあり、頼朝は豊後を警戒して幕府の直轄地とする。
 そして頼朝は、最も信頼の厚い第一秘書官とも言えるべき大友能直よしなおを豊後守護職に任用する。

◎でもすぐ来て、統治なんかできたの？
 (何で大友氏は豊後に根ざせたの？)
 ○大友氏は豊後で有効な土着政策を実施。初代の大友能直よしなおには一〇人以上の男児がおり、嫡男の親秀ちかひでを除き、ほとんどを豊後の各有力在地領主に養子として送り込む。

【大友氏略系図】

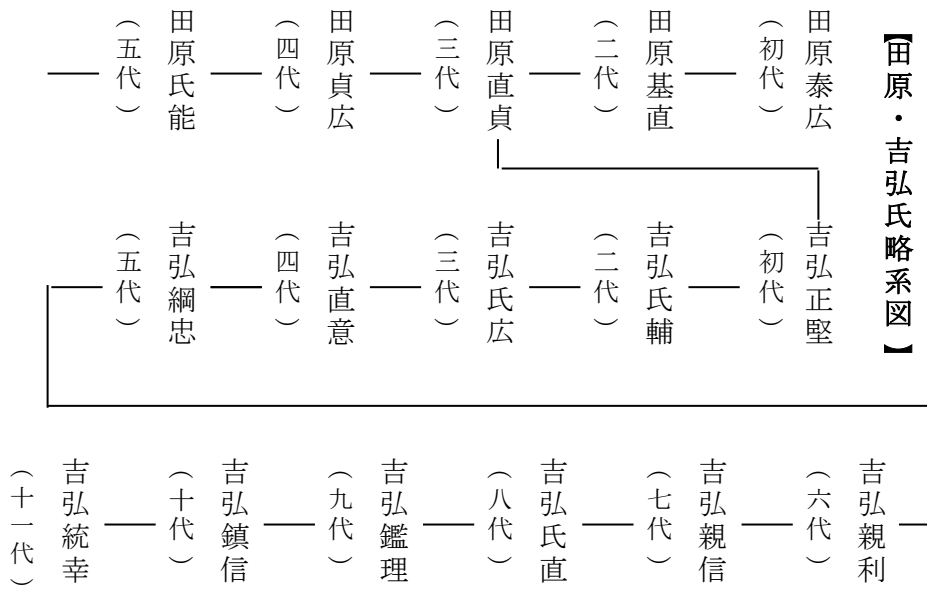


さらに二代の親秀も、同じように血のつながりのある子を数多く養子に送り込んで、大友一族として豊後に土着していく。

◎吉弘氏について

吉弘氏は大友初代・能直の十二子・泰広(田原氏初代)の孫・直貞(田原氏三代)の二男・正堅を祖とする。

【田原・吉弘氏略系図】



田原家から分流した吉弘正堅は、武蔵郷吉広村に本拠を置いて吉弘氏を名乗る。正堅は吉弘城や永泰寺を建て、楽庭八幡宮を創建して楽を奉納した。今に伝わる吉弘楽の始まりであった。



【 楽 庭 八 幡 宮 と 吉 弘 楽 】

吉弘氏七代・親信から八代・氏直の頃、本拠を武蔵郷吉広村から都甲荘(豊後高田市)松行に移し、笥館を構え屋山城を築いている。

◎素晴らしき大友氏家臣団

○戸次鑑連(立花道雪)

九州第一の武将

永正 十年(1513)生れ

天正十二年(1584)死没

戸次鑑連は大野郷藤北(豊後大野市大野町)の鎧岳城主・戸次親家の二男で、大友一族きつての勇将といわれ、幾多の戦場で目覚ましい活躍をしている。

元龜一年(1570)、宗麟の命により筑前の立花城城督として配置される。天正六年(1578)日向合戦で島津軍に大敗後、近隣国主らが大友家を離反していく中で、道雪は太宰府の岩屋・宝満城主の高橋紹運と共に力を合わせて大友家を最後まで支え続けた。



【 戸 次 鑑 連 (道 雪) 】

跡継ぎのいない道雪は、高橋紹運の嫡男
統虎を娘（閨千代）の婿養子に迎える。

天正十二年（1584）、道雪は盟友の
高橋紹運と高良山に出陣し、島津方の柳河
城を攻めたがなかなか落とせず。天正十三
年（1585）、立花道雪は高良山陣中で
病没（七三歳）。

◎大友女の活躍（大分女性の魅力）

○立花閨千代

永禄十二年（1569）生れ
慶長 七年（1602）死没

閨千代は立花道雪の一人娘で、高橋紹運
の嫡男・統虎（宗茂）を婿にとる。幼い頃
より武芸に秀で、兵法などを学ぶ。男児の
なかった道雪は、わずか七歳の娘に家督を
譲り、閨千代は日本史上異例の女城主とな
っている。

閨千代は鬼と恐れられた道雪の娘という
ことで、多くの武勇が伝えられている。
立花宗茂が朝鮮出兵で不在の時、豊臣秀吉
は美人と評判の閨千代を名護屋城に呼びつ
け手込めにしようとした。秀吉の女癖の悪
さを知っていた閨千代は、侍女らとともに
武装して乗り込む。恐れをなした秀吉は手

も足も出なかったという。

◎素晴らしき吉弘の武将たち

○吉弘鑑理

吉弘氏九代当主
永正十六年（1519）生れ
元亀 二年（1571）死没

鑑理は大友宗麟の加判衆（重臣）で、智
勇兼備の武将として各地で活躍。戸次鑑連
・臼杵鑑速と共に豊後の三老と称される。

吉弘の数多い武将の中で、この鑑理こそ
吉弘を代表する武将だと、平成二八年に死
去された吉弘尚正氏（二二代当主）は強調
されていました。

○吉弘鎮信

吉弘氏十代当主
生れ 不明
天正六年（1578）死没

鎮信は博多経営にあたり商人の島井宗室
とも交流。毛利軍との戦いでは数々の戦功
をあげるが、島津軍との日向合戦で討死。

○高橋紹運

吉弘氏九代・鑑理の二男（吉弘鎮種）

天文十七年（1548）生れ
天正十四年（1586）死没

毛利元就の謀略に応じ、永禄十年（15
67）、宝満城主の高橋鑑種が謀反。これ
に立花城主の立花鑑載も同調。さらに大友
氏に服していた龍造寺隆信、筑紫広門、秋
月種実、原田親種、宗像氏貞らが挙兵。

これに対し大友宗麟は高良山に出陣し、
諸将を指揮して反乱軍を平定。宗麟は戸次
鑑連に立花城を継がせ、のち立花道雪と改
名。さらに、吉弘鑑理の二男・鎮種に高橋



【 高 橋 紹 運 】

氏を継がせ宝満・岩屋城主とし、のち高橋
紹運と改名。宗麟は信頼のおける二人を配
置して筑前を守る要とした。

天正九年（1581）、実子のない道雪
から、紹運の嫡男・統虎を養子にと請われ
る。統虎は高橋家にとっても大事な跡継ぎ

であり、最初は拒絶していたが、実の父のような存在である道雪の度重なる要請に、ついに承諾する。

天正十四年(1586)、島津の大軍が攻め寄せた時、高橋紹運はわずか七百余の手勢で岩屋城(太宰府市)に籠り、半月にわたる激戦の末ついに全員討死。

この戦いは、秀吉軍が島津攻めのために九州に到達するまで時を稼ぎ、なるべく多くの損害を島津軍に与え、嫡男の統虎(立花宗茂)が守る立花城への波及を防ぐ戦いであった。

○立花宗茂

西国無双の男(秀吉の言)

永禄 十年(1567)生れ

寛永十九年(1642)死没

高橋紹運の嫡男・統虎(宗茂)

立花道雪の娘(閨千代)の婿養子

立花宗茂は天性、兵略に優れていたが、彼の資質は実父・高橋紹運と、養父・立花道雪の薫陶によるものであった。

秀吉軍が九州に入り、島津攻めで宗茂は先陣となって戦功をあげ、秀吉より柳河を拝領。関ヶ原の戦いでは、豊臣家に恩を感じ西軍につくも敗れて改易。流浪の生活を

送るが、宗茂の士道を基本にした人柄と勇猛さを惜しむ声多く、浪人になって三年後家康に呼び出され御書院番頭の役に就く。

慶長十一年(1606)、家康より奥州棚倉一万石の大名に返り咲く。大坂(のち大阪)の陣でも大きな戦功をあげる。

元和六年(1620)、徳川二代将軍・秀忠より柳河(のち柳川)を与えられ、ついに宗茂は旧領の柳河へ二〇年ぶりに奇跡の復帰をする。

寛永十四年(1637)徳川三代将軍・家光から請われ島原の乱にも出兵し活躍。寛永十九年(1642)立花宗茂は家康をはじめ秀忠・家光三代にわたる側近を務めあげ、江戸にて病没(七六歳)。

大友家臣団の中で唯一、立花氏のみ大名



【立花宗茂】

として、明治四年(1871)の廃藩置県まで続いた。

○吉弘統幸

永禄六年(1563)生れ

慶長五年(1600)死没

吉弘統幸は天正六年(1578)の日向合戦で父・鎮信(十代)を失い、十一代の家督を継ぐ。

天正十四年(1586)島津軍が豊後に侵攻、戸次河原の合戦で大友・四国連合軍は大敗し、島津軍は怒涛の勢いで府内へと進軍する。この時、府内祇園社(のち弥栄神社)を本陣として手勢わずか三百の兵を指揮したのが吉弘統幸であった。

統幸は先ず戸次河原から府内へ逃げ帰る大友義統や四国の長宗我部元親・仙石秀久



【吉弘統幸】

らの救出に全力をあげた。

勢いづいた島津軍は、祇園川（大分川の古国府付近）を渡ろうとした。このとき、

統幸は一陣は鉄砲兵、二陣は弓兵、三陣は槍兵という三段構えの陣を指揮した。

島津軍は、統幸軍の陣立てと気迫に押され、冬の夕暮れと寒さが迫り、ここはいつたん祇園川の渡りを中断し、津守の守岡の砦へと退き、夜を明かしたという。

この吉弘統幸の働きにより、島津軍の府内侵攻が一日遅れたので、大友義統や長宗我部氏、仙石氏らは遠くへ逃げることであったのであった。（祇園河原の戦い）

さらに統幸は朝鮮出兵でも活躍したが、秀吉による豊後国没収後、従兄弟にあたる柳河の立花宗茂のもとに呼ばれていた。だが、一六〇〇年の別府・石垣原の戦いでは旧領主・大友吉統軍（西軍）の大將として臨み、黒田官兵衛軍（東軍）と激烈な戦いの中、壮絶な討死を遂げた（三八歳）。

時は戦国の世、裏切りや謀反・下剋上等が当たり前の時代に、吉弘の武將たちの忠義・忠誠心は他に類を見ないといえよう。

フォーラム in 豊後高田

アンケート（報告）

豊後高田市で開催したフォーラムの際、アンケート調査を実施し、37人より回答を得たので、その概要を報告する。

フォーラム参加者の内訳は「会員26人、一般224人、合計250人」となる。

一 年令についてお答えください。

- 〓 19才 0人
- 20 〓 29才 0人
- 30 〓 39才 0人
- 40 〓 49才 3人
- 50 〓 59才 1人
- 60 〓 69才 13人
- 70才 〓 20人

二 性別についてお答えください。

- 男性 29人
- 女性 8人

三 大友氏顕彰フォーラムの開催を、どこ

で知りましたか？（複数回答可）

- チラシ 7人
- ホームページ 1人

○ 新聞 12人

○ テレビ・ラジオ 0人

○ フェイスブック 0人

○ 友人・知人 10人

○ 会員・会報等 8人

○ その他 5人（市報）

四 豊後高田周辺の大友家臣団を

ご存知でしたか？

- よく知っている 6人
- 少し知っている 24人
- 全く知らなかった 7人

五 大友氏顕彰フォーラムの内容は？

- 大変満足 30人
- やや満足 6人
- 普通 0人
- やや不満足 1人
- 不満足 0人

六 今回のフォーラムで一番おもしろかった、興味深かったことは何ですか？

- 基調講演 26人
 - パネルディスカッション 10人
 - 歌（人間・大友宗麟） 1人
- が良かったとの回答がある。

以下、主な回答を記述する。

- 佐藤弘俊氏の基調講演 「天友氏を支えた吉弘氏」の説明が、とても分かり易く理解できた。
 - 大河ドラマ風の説明が良かった。吉弘氏を中心としたドラマを見た気がした。
 - 基調講演で吉弘統幸と立花宗茂の来歴がよく分かった。
 - 吉弘一族の歴史を系統的に説明してくれたのが良かった。
 - 大友家臣団相互の関係で、嫁のやり取り等、女性が重要な役割を果たしていることが理解できた。
 - パネルディスカッションで大畑雅英氏の屋山城や鞍掛城のCGがとても良かった。
 - 豊後高田と大友氏とのつながりが深いのが分かりました。
 - 吉弘氏の歴史がよく分かった。都甲氏についても興味がわいたので調べてみたい。
 - 原川二郎さんの歌「人間・大友宗麟」が良かった。
- 七 フォーラムの感想をお書きください。
- 吉弘氏を中心とした大友家臣団の活躍ぶりがよく理解できました。
 - 事前準備が良くなされており、充実した

フォーラムでした。

- 詩吟・歌・フラダンス等のアトラクションで息抜きができました。
 - 豊後高田の大友家臣団について、今まで勉強していなかったもので、今後大いに調べてみようと思います。
 - 豊後高田の新しい知識を得て、歴史に興味が増した。
 - 佐藤弘俊さんの熱い語りに感動した。さらに詳しく歴史を調べて教えてください。
 - 女性にハイライトを当てたところが斬新に感じられました。
 - 大友氏については「敗者の歴史」のイメージが強く、後の政権によって書き変えられた部分があると思う。今日の吉弘氏の話は実に爽やかで堂々とした歴史だと思う。今日の内容を広く世に広め、ぜひ「天河ドラマ」を実現して、大友ファン・吉弘ファンを増やしてほしい。
 - フォーラムを記念して出版された『天友氏の風景(四)』は、毎回内容が充実しており、貴重な資料としていきます。
- 八 今後、フォーラムでやってもらいたいテーマや、会の活動に対する要望等何でもお書きください。

● 宗麟の話に特化する傾向がありますが、今回のように大友一族「吉弘氏」に広げると、話がおもしろく楽しい。

● これまで大分市・臼杵市・竹田市・豊後高田市のフォーラムに参加してきた。今後も各地でフォーラムを開催してほしい。

● パネルディスカッションでは、普段聞けない吉弘氏・都甲氏・田原氏の話が聞けておもしろかった。これを文章にした資料がほしい。(編集者注・大友氏の風景(五)にフォーラム議事録を掲載する予定)

● 大友氏・島津氏・大内氏のサミットをやってもほしい。

● 屋山城と鞍掛城の復元をやってもほしい。

● 野田東洋氏が言われたように、他県との交流も大切だと思います。

